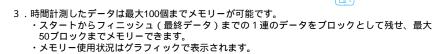


セイコー「データグリップ」S701は、ランナー自身で記録管理できる本格的な自己計測用ストップ ウオッチです。

1. 片手操作でタイム計測が可能です。 ・片手 (左手優先)に装着、操作できる形状になっています。 ・スタートからラップ / スプリットの計測まで 1 つのボタンで操

作できます。 ・計測を終了させるエンド入力は別ボタンで、不用意に入力しな いようになっています。

2.見やすさと安全性にも配慮しました。 大型パネルを採用し、走りながらでも読みとりやすくしました。 ・夜間の使用も考え、パネルのバックライトを備えています。 ・バックライトを点灯して時間計測すると、赤色のセイフティーラ ンプが点滅して、ランナーの存在を知らせてくれます。



4.データのプリントアウトができます。(別売の 専用プリンターが必要です:品番SVAZ001 小売価格14,800円)

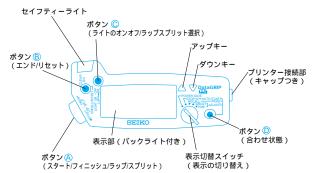
別売のシステムプリンターを使えば、計測 中または計測後にデータを印字できます。 ・識別番号(ID)を設定できますので、印字 されたデータの管理にも役立ちます。

5.フルオートカレンダー ・1995~2039年のカレンダーを記憶していま すので、その間は日付けの修正が不要です。

6. 電池寿命切れ予告機能付き ・本体の電源である小型リチウム電池の寿命 切れをお知らせします。

各部の名称とはたらき

【全体正面】



電池ぶた止めネジ 電池ぶた (この中に照明用の単4の乾電池2本と 本体用の小型リチウム電池1個があります) (電池交換の時これを 回して緩めます) ベルト固定部(2箇所

ご使用になる前に

【単4電池の入れかた】 ・お買い上げいただいた状態では、照明用の単4電池がセットされていませんので、 表示部のパックライトやセイフティーライトは点灯しません。 ・下記の方法で、添付の乾電池をセットしてください。 硬貨(500円硬貨が最適)などで、電池ぶた止めネジをゆるめてください。



ベルトは電池ぶたを外す際に多少妨げになりますので、あらかじめ外すことをお勧めします。

電池ぶたを外します。図のようにややスライドさせるようにすると簡単に外せます。

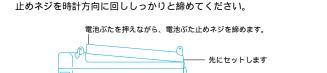
このとき、無理に電池ぶたを持ち上げると、引っ掛け部の爪が破損する恐れがありますので、

ベルトを装着する前のイラストです。

【裏面】

ここに単4乾電池を2本入れます。

- 2本とも新しいものを入れてください 電池ぶたの引っかけ部を先にセットし、電池ぶたを押えながら、電池ぶた

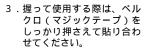


雷池ぶた止めネジは、約2~3回転で締まりますので、それ以上は無理に締め ないでください。また、本体のパッキンには、防水性を保つためシリコング! スが塗布されていますので、拭き取ったりしないでください。点灯確認は、 バックライトとセイフティライトについて」を参照。

ベルトについて

セイフティーライト

- ・ベルトは、以下の方法によって着脱可能となって 3 おり、汗等で汚れた際に洗うことができます。乾 電池の交換もベルトを外すとスムーズにできま
- ・このイラストでは、ベルトの取付け方を示してあ ります。外す時は、逆の順序で行ってください。
- . SEIKO文字を表にして、本体下側のバネ棒の内 側を引き通します。べ ルトエンド部 ふくら んでいる所)がバネ棒 で止まるまで引いて ください。
- 2.ベルクロ(マジック テープ)のある面を 表にして、本体上側の バネ棒の内側を引き通 します。

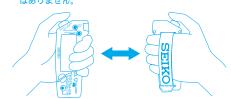


洗濯機で洗う時は、ベルクロ(マジックテープ)で、 他の衣類を傷つける恐れがあります。洗濯用ネットに

ロン、ドライヤー等は使用しないでください。

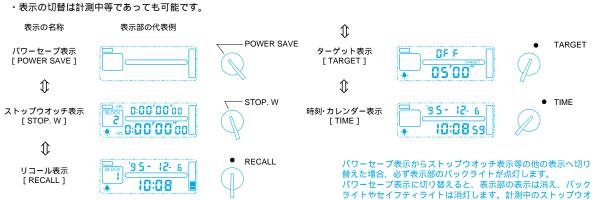
ベルクロ(マジックテープ)をはがして、ベルトを ゆるませ、左手の親指を除く4本の指を入れます。 本体をてのひらにつつむ感じで握り、親指でボタン A を押し易い位置でベルクロ(マジックテープ)を しっかりととめてください。

深く握るほど、走行中落としにくくなりますが、親指でのボタン操作がやりにくくなります。何度か操作をお試 しの上、ご自分で最適な位置をお決めください。 本体前面のアップ・ダウンキーに指がかかりますが、フ トップウオッチ計測中は無機能ですから、誤作動の心配 はありません。



各表示への切り替えかた

・各機能を選択するには「表示切替スイッチ」を使って行います。



時刻・カレンダーの合わせかた

- ・時刻は24時間制で表示します。
- ・カレンダーは年、月、日を表示します。 ・年は西暦の下 2 桁で表示し、1995~2039年までのフルオートカレンダーです。

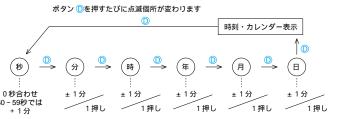
表示切替スイッチを[TIME]に合わせてください。 の操作には支障ありません。



アップキー ダウンキー

10:085 ボタン□ 時刻・カレンダー合わせ 状態 秒表示が点滅します。

ボタン□を押して合わせたい箇所を点滅させ、「アップキー」または「ダウンキー」



「アップキー」(または「ダウンキー」)を押すと、点滅している数値が1つずつ進む (または戻り)ます。

合わせやすい方向のキーを選んで合わせてください。(押し続けると早く変わります) ただし、「秒」は、アップ/ダウンキーのどちらでも「0秒」になります。

秒合わせについて 「秒」を点滅させ時報に合わせてアップまたはダウンキーを押す

「00秒」に合います。 「秒」が30~59秒の時、アップまたはダウンキーを押すと「分」が1分繰り上がり「00秒」に合います。 合わせ終わったら、時刻・カレンダー表示になるまでボタン D を押し

(どこも点滅しない状態が、時刻・カレンダー表示です。) または、表示切替スイッチで時刻・カレンダー表示[TIME]以外に切 り替えることでも、時刻・カレンダー合わせ状態から抜け出すことがで

ンダー合わせ状態で60~70秒間放置すると、自動的に時刻・カレン

ストップウオッチの使いかた

装着のしかた

ラップタイムは、区間と区間の経過時間 を、スプリットタイムは、スタートから ある区間までの途中経過時間をさします。



- スタートとラップ/スプリットは、1つのボタンで操作ができます。
- ・スタートとフップ/スプリットは、1つのボダンで操作ができます。
 ・「スタート、フィニッシュ、エンド方式」の操作方式です。
 ・スタートからフィニッシュまでの1連のデータがプロックとしてメモリーされます。
 ・メモリーがいっぱいになるまでは、すべてのデータがメモリーされます。
 ・スプリットタイムは、1/100秒単位の10時間計です。(10時間以降は0から計測続行)
- ・ラップタイムは、1/100秒単位の60分計です。(60分以降は0から計測続行) ・計測中の表示は「ラップ時間」か「スプリット時間」のどちらかを選択表示できます。
- ・ラップ/スプリット回数は「99」まで表示します。(99の次は「00」に戻って計測続行) ・ターゲットタイムを設定しておくと、その時間をタイムアップ音で知らせます。
- オートスタート機能で、10秒後の自動計測スタートができます。 時間計測中は、セイフティーライトの点滅発光ができますので、ランナーの安全に役立ちます。

豆知識 ストップウオッチ機能をお使いになる前にお読みください。

・計測の全体像は、下記の通りです。 コタート ・・・・・・・・・・・ボタン A スタートの時刻(年、月、日、時、分) 1つ目のラップ/スプリット時間 ラップ1(またはスプリット1) ・・・・ボタン A ラップ2(またはスプリット2) ・・・・ボタン A 2 つ目のラップ / スプリット時間 最終ラップ(または最終スプリット) ・・ボタン A フィニッシュデータ(最終ラップまたはスプリット)

ッチは、計測をし続けます。

計測の終了(エンド)を入力・・・・・・ボタンB (2秒押し) (ここではデータは残りません!) 上記の通り、フィニッシュデータまでボタン A を押して計測し、エンドの入力をボタン B の 2 秒押しで

- 宣言する方式になります。 ップ(またはスプリット)になります。
- 「ブロック」について
- ・スタートからフィニッシュまでの一連のデータを「ブロック」として扱います。 ・スタート前にこれから計測する「ブロック」にナンバーがつきますので、この「ブロックナンバー」 でデータを呼び出すことができます。

・このブロックナンバーは最高50まで使用できます。

計測のしかた 表示切替スイッチを [STOP.W] に合わせてください。



スプリット時間が選択されている 場合のイラストです(以下この項すべて) 上段/下段とも「0」のデータが表示 されているのがリセット状態です。

(「 メモリーの消去のしかた」を参照)

リセット状態でない場合は、下記に従いリセットしてください。 計測中の場合:ボタンBを2秒押し続け、フィニッシュデータが表示される。 もう一度、ボタンBを押してリセットする。 フィニッシュデータ表示の場合:ボタンBを押してリセットする。

ボタンAを押して「スタート」させます。 上下の表示が計測時間を表示します。



ボタン A を押して、ラップまたはスプリット計測します。

'0:0 1'34"se [

ラップまたはスプリットを次々と計測し、最終の計測までボタン〇で入力します。

上段:スプリット1の計測時間

下段:スタートからの計測時間



「ラップ時間」と「スプリット時間」の表示選択について

最後の計測までボタン A で行った後、「エンド入力」をします。 ボタンBを2秒以上押し続けてください。ピッピッと操作確認音が鳴り、ピーッという長い報音で下 段が「End」点滅表示から、フィニッシュデータに切り替わります。 上段は消灯し、下段は最終計測データが表示されます。



ボタン B を 2 秒以上押さなかった場合は、「エンドの入力」が無効となり、フィニッシュデータが表示され 「エンドの入力」では、時間計測は行いません。 「エンドの入力」をした後からは、そのプロックの再スタートはできません

もう一度、ボタンBを押してリセットしてください。



このリセット操作をしないと、新しい計測はできません。

メモリー使用量について ・最大100個のメモリーをどのくらい使用したかをインジケーターで示します。 ・各ラップまたはスプリットの他に、スタートデータも1個のメモリーとして使用しますので、1つ のブロックでは、最低2つのメモリーを使用/消化します。

インジケーターの見かた 10個のバー表示でメモリーの使用量を段階的に表示します。

1個のバーが「データ10個分」に相当します。

バーの数 バーの数 データの数 0~9個 90 個 9個と1個目点滅 10 ~ 19 9個と2個目点滅 20 ~ 29 8個 80 ~ 89 9個と9個目点滅

メモリーの中のデータ数が99個および100個になると、新しいプロックへのリセットができなくなりま

計測上の注意

エンドの入力の後、そのブロックを再スタートおよび積算の計測はできません。 リセット表示からのみ、次の計測が可能です。

計測中にメモリーがいっぱいになった場合でも、最終データであるフィニッシュデータは必 ずメモリーに残り、その間のデータは表示されてもメモリーには残りません。 計測中の上段 / 下段の表示として「ラップ時間」か「スプリット時間」かのどちらを選択し ても、リコール表示では両方のデータが見られます。

スタート後、ラップ / スプリットを 1 つも取らずにEND入力すると、そのブロックナンバー のままリセット表示になり、計測が行われなかったことになります。

オートスタートの使いかた ・ストップウオッチのスタートを10秒後自動的

に行います。 ・オートスタートをセットすると、3秒前から3、 2、1、スタートと報音し、計測開始します。

ストップウオッチ表示においてリセット状態



計測中やフィニッシュデータ表示中では、以下の 操作ができません。

表中の「ラップ」とは「ラップ/スプリット」のことです。

ボタン▷を押すと、オートスタート表示になります。



ボタンAを押すと、オートスタートを開始します。 上段の表示が、カウントダウンして「3秒」「2秒」 1秒」「スタート」のとき報音し、ストップウオッ チがスタートします。スタートしてからは通常に使 用できます。 【オートスタートの途中キャンセルについて】

できます。 オートスタート開始後(スタート前)では、ボタン Β で途中ストップでき、その後ボタン Α で再スター トもできます。再スタートしない場合は、さらにボ タンBを押してキャンセルしてください。

オートスタート開始前では、ボタン B でキャンセル

| <mark>メモリーされたデータの呼び出しかた [</mark> RECALL]

- ・ストップウオッチ表示で計測したデータは「リコール表示」で呼び出し、見る
- ことができます。 ・データはブロックごとに呼び出すことができます。
- ・データは最大ブロック数で50まで、データ数で100個までの呼び出しができます。 ─旦、記録されたデータは、「リコール表示」にて消すまで保持されます。 ・表示部に呼び出す以外に、データの印字も可能です。(「データの印字につい

表示切替スイッチを[RECALL]に合わせてください。



表示されるデータはストップウオッチ表示での状態によって異なります。 上図はストップウオッチが計測中でラップ3を計測する前の状態で、この表示に切り替えた場合です。 【リコール表示でのデータの例】 a) ブロックのスタートデータ

スタート /(年、月、日) ブロックナンバー

スタート時刻(時、分)

95-12-6

「ラップ / スプリット 3 」の場合 最終ラップ/スプリット回数 (分、秒、1/100秒) ラップ時間 【分、秒、1/100秒) ラップ / スプリット回数

b) ブロック内のラップ / スプリットデータ c) フィニッシュデータ

スプリット時間 (時、分、秒、1/100秒)

16,24,E27

最終スプリット時間 (時、分、秒、1/100秒)



d) メモリーになにも入っていない状態

アップキーとダウンキーを使ってデータを呼び出します。

アップキー は数字(ラップ/スプリット番号など)が増える方向に、 ダウンキー は数字 (ラップ / スプリット番号など) が減る方向にデータが呼び出せ



ただし、呼び出したデータによっては、アップ/ダウンキーの意味が変わります。 右表を参考にデータを呼び出してください。 この表は「あるデータ」が表示されている際、アップ/ダウンキーを押した場合に、「表示 されるデータ」を示しています。

データ あるブロックの 計測中のブロック フィニッシュデータ スタートデータ で最新データ 操作 そのブロックの 次のブロックの ブロック1の ラップ 1 データ スタートデータ スタートデータ 1 つ前のブロック フィニッシュデータ 最新データの1つ のスタートデータ の前のラップデータ 前のラップデータ

アップキーを押していくと、ブロックの中のデータを計測した順番に呼び 出し、「フィニッシュデータ」を表示した後、次のブロックの「スタートデ ータ」を表示します。

図で現すと「アップキー」を押すごとに右上図のようになります。

ブロック1の LAP / SPLIT LAP / SPLIT ブロック 1 の フィニッシュデータ スタートデータ 1のデータ 2のデータ ブロック 1 のデータ ブロック2の メモリーした最後の ブロック 1 の ブロック 3 の ブロックのスタートデータ スタートデータ スタートデータ スタートデータ ブロック2のデータ ブロック3のデータ メモリーした最後の <u>ブロック 1 に戻る</u> ブロックのデータ アップキー を押し続けると上図の順番で早く切り替わります。各ブロックのスタート データが呼び出されたときは約1秒間表示が固定されます。

計測してメモリーされたデータまたはブロックの量にしたがって図の順でデータが表示されま

上図はブロックの数が3を越えるメモリーがある場合を例にしてあります。

て」を参照)

ダウンキーを押していくと、ブロックの中のデータを計測した順番とは逆に呼び出し、「そのブ ロックのスタートデータ」を表示した後は、「1つ前のプロックのスタートデータ」 「もうー つ前のスタートデータ」といったように「各プロックのスタートデータ」のみを呼び出します。 図で現すと「ダウンキー」を押すごとに下図のようになります。 ブロック3のラップ/スプリット2を呼び出している状態とすると、

ブロック1の LAP / SPLIT ブロック 3 の ブロック 2 の 2のデータ 1のデータ スタートデータ スタートデータ スタートデータ メモリーした最後の ブロックのスタートデータ 1つ前のブロックの スタートデータを次々

と呼び出します。

ダウンキー を押し続けると上図の順番で早く切り替わります。各ブロックのスタートデータの呼び出 しになると約1秒間表示が固定されます。 左図はプロック数が3を越えるメモリーがあった場合を例にしてあります。 計測してメモリーされたブロックの量にしたがって、図の順で各ブロックのスタートデータが表示され

よって、「ダウンキーでブロックを探し」、「そのブロックの各データをアップキー」で呼び出す と覚えてください。

ボタンBの使用について

・リコール表示で「スタートデータ」以外を呼び出しているとき、ボタンBを押すとそのプロ

・ボタンBを2秒以上押し続けるとデータの消去になりますのでご注意ください。

メモリーの消去のしかた (データのALL CLEAR)

- ・こんなときに、メモリーの消去が必要となります。
- a) 不要になった計測データを消したいとき。
- b) メモリーがいっぱいで、新しいブロックでのストップウオッチ計測ができないとき。 c) これから計測しようと思うが、メモリーの残り量が少なくオーバーしそうなとき。 ・メモリーの消去はメモリー全部を消すことになります。ブロック単位やデータ単位 での消去はできません。
- ストップウオッチが計測中の場合はメモリーの消去はできませんので、下記の方法
- でストップウオッチ計測をフィニッシュさせてください。
- ・ボタン B を 2 秒間以上押してください。
- その場合は計測をすませた後、この操作をしてください。

表示切替スイッチを[RECALL]に合わせてください。



バックライトとセイフティーライトについて

- ・表示部のバックライトは、必要に応じて点灯/消灯が選べます。
- ・点灯したライトは、ボタン操作が無い場合60~70分後、自動的に消灯します。 ・セイフティーライトは、ストップウオッチが計測中で、しかもバックライト点 灯中の時のみ点滅し、ボタン A の入力があると点滅が早くなります。。

条件	ストップウオッチ計測中	ストップウオッチ非計測中
バックライトの点灯を選択 - <mark>♣</mark> マーク点灯	セイフティライトは点灯 (点滅)	セイフティライトは消灯
バックライトの消灯を選択	セイフティライトは消灯	セイフティライトは消灯

上記の設定になっているので、バックライトの点灯 / 消灯を選択することで、 使用用途に合わせられます。

バックライトの点灯/消灯の選択方法 [LIGHT ON-OFF] 表示切替スイッチを[TIME]に合わせてください。 ボタン ○ を押すと、バックライトの点灯 / 消灯の選択ができます。

ボタン◎◎ □□ TIME '95- 12- 6 |

IL ENG

ボタン®を押している間このような表示

の点滅とピッピッと警告音がします。 2秒以上押し続けると長い報音で警告音

は終了し「NO DATA」の表示になります。

ボタン B を 2 秒以上押さない場合は、メモリーは消去されません。

バックライトの点灯の方法

ボタンBを2秒以上押し続けてください。

ボタンB

- ・点灯の方法にはもう一つあります。
- 表示切替スイッチを「POWER SAVE」に合わせてください。 [POWER SAVE]状態から別の表示に切り替えると、バックライト が点灯します。

点灯を選択すると「♣」マークも点灯します

- ライトの照度について 電源に乾電池を使用していますので、ライトの照度はだんだん落ち
- ・寿命切れ近くでは、新品時とはかなり照度の差がでます。
- ・低温においては、新品の乾電池でも暗くなってしまいます。 計測への影響はありません。

ターゲットタイムの使いかた

- ・ある一定の時間の目標タイムに報音させることができます。
- ・単なるタイマーとは異なり、ラップ/スプリットを計測した時を基点 に設定した時間後に報音します。

ターゲットタイムの設定 表示切替スイッチを[TARGET]に合わせてください。



ボタン D を押して「ターゲットタイム合わせ」合わせ状態にしてくだ





ボタン D を押して合わせたい箇所を点滅させ、「アップキー」 または「ダウンキー」で合わせます。

ボタン

を押すたびに点滅箇所が変わります。

分 ターゲット表示 1押し 1押し 1押し 「アップキー」(または「ダウンキー」)を押すと、点滅している

数値が1つずつ進む(または戻り)ます。

合わせやすい方向のキーを選んで合わせてください。(押し続け ると早く変わります) ただし、「設定状態」は、アップ / ダウンキーのどちらでも「ON」 「OFF」の切り替えになります。「ON」は、ターゲットタイム

設定ありです。「OFF」は、ターゲットタイムの設定なしとなり、

ターゲットタイムの時間が表示されていても報音しません。

合わせが終ったら、ボタン□を押してターゲット表示にしてください。 または、表示切替スイッチを「TARGET」以外に切り替えてください。 ストップウオッチの使い ストップウオッチ表示での使いかた (

かた」も参照) ターゲットタイムを決め、設定状態を「ON」にします。



(設定ON) のとき 設定したターゲットタイムの3秒前から、「3」「2」「1」「0」と

報音します。 たとえば、周回の時間を設定した場合、ターゲットタイムで報音す るのと、1周するのとでは、どちらが早いかで、その周回のペース

実際に、周回ごとにラップ計測をしていくと、周回ごとにターゲッ トタイムに対してどうなのかが、つかめます。

ターゲットタイム使用上の注意点 設定「ON」の場合

- ・スタート後は必ず設定時間で報音しますが、その後はラップ/スプリット計測が あると、そこから設定時間経過時に、報音します。
- ・ターゲットタイムの設定が「00'00"」の場合は、設定状態が「ON」でも報音しま
- ・ターゲットタイムに満たない状態では、2つまでのラップ/スプリット計測には 対応できますが、それ以上は無効となります。1つまたは2つのターゲットタイ
- ムの報音が済んでからのラップ/スプリットは有効となります。 ・ストップウオッチ計測中でも、この設定の「ON / OFF」や時間の変更ができま すが、それが有効となるのは、ストップウオッチ表示に戻り、新しく計測したラ

ップ / スプリットからです。

データの印字について(IDの設定)

この時計からデータを印字するためには、別売の専用プリンターが必要です。 ストップウオッチ機能で計測したデータを印字する場合は、専用のプリンターを お買い求めください。(専用プリンターの品番: SVAZ001 小売価格14,800円)

- ・データの印字はブロック単位で行われます。
- ・メモリーされている全部のプロックを印字させることもできます。
- ・ストップウオッチのスタート前から、プリンターを接続し「ON」にしておけば、 データを取るたびに即データの印字が可能です。
- ・ストップウオッチが複数ある場合を想定した、識別のための「ID」を設定できま すので、印字したデータが個人で確認できます。
- ストップウオッチが計測中では印字機能は使えませんので、ストップウオッチ計 測中の場合は、「エンド入力」をしてください。(ボタンBを2秒以上押す)

表示切替スイッチを [RECALL]に合わせてください。

印字したいプロックを「アップキー」または「ダウンキー」で捜します。 (「 メモリーされたデータの呼び出しかた」を参照) 印字したハブロックの選択ができれば、ストップウオッチの準備は完了です。

プリンターとにセットしてください。 る方法】 キャップを外して接続コードをセットします。

モコードのセット方法は専用プリング

専用プリンターの「POWER」スイッチをONにします。

ストップウオッチのボタン ▷ を押すと表示されている「ブロック」の データがプリンターに印字されます。



専用接続コード(プリンターの付属品)を、ストップウオッチと専用 【メモリーされている全プロックのデータを印字す

・ボタンDの押しかたで、「ブロック単位」と 「全ブロック」の印字が選択できます。 「ボタン D を普通に押すと」 表示されてい BLOCK: 1 るブロックの印字になります。 1995 12 6 START 10:08 「ボタンDを2秒以上押し続けると」 全ブ

ブロック 1 からの印字になります。 他のブロックの印字が必要な場合は、操作 と

ロックの印字になります。この場合は

を行ってください。

印字が終わったら、プリンターのスイッチを切 り、接続コードをストップウオッチから外して ください。(接続コードの外しかたは、プリン ターの取扱説明書をご参照ください) キャップ はしっかりと押し込んでください。

印字の例

ブロックナンバー(No.1) スタート日 (年、月、日) スタート時刻 (時、分) 印字形式 (SPLIT / LAPの両方印字の意) スプリット1のデータ ラップ 1 のデータ スプリット2のデータ ラップ 2 のデータ 最終スプリットのデータ

10-0:06'0138 最終ラップのデータ 0:00'2709 計測終了の意(上記のデータが最終データになります)

印字は何回でも行えます。途中で紙が無くなってしまった場合等は、はじめから

計測と同時にデータを印字したい場合 ・ストップウオッチ計測中に同時に印字することができます

点灯を選択すると「♣」マークが点灯します。

- ・印字してもメモリーには、通常通り100個のデータまでは残ります。 ストップウオッチ計測スタート前に、専用プリンターの準備をします。
- ・接続コードをストップウオッチとプリンターにセットします。 ・プリンターの「POWER」スイッチをONにします。 計測スタートと同時にデータの印字が始まります。
- 計測スタート前にブリンターの準備ができていない場合、スタート後接続やブリンターの「POWER」スイッチをONにしてもこの機能は使えません。メモリーがいっぱいになった以降のデータの印字で、1つのデータを印字中に次々と「ラップ/スプリット計測」が行われると、印字が間に合わず、印字できないことがあり

ますのでご注意ください。

- 識別番号について [IDの設定] ・ストップウオッチが複数台ある場合、データの印字がどのストップウオッチから
- 出されたものかが、わからなくなることがあります。 ・そんなときに、それぞれのストップウオッチごとに識別番号(ID)を設定してお
- けば、印字したデータの識別の助けとなります。 表示切替スイッチを [TARGET] に合わせてください。

「アップキー」と「ダウンキー」を同時に押してください。



ID合わせ状態で「アップキー」または「ダウンキー」を押して、IDを決めてください。

- ・IDは1~99の中から選択できます。 「1」の前または「99」の後に「OFF」の表示がでます。
- ・「OFF」はIDをつけない意味となります。
- 合わせが終わったら、表示切替スイッチを [TARGET]以外に切り替えてください。 IDは、データの印字の前に設定してある内容が有効 になります。よってストップウオッチ計測時には設 定なしでも、印字前に設定すれば印字されます。
- 印字の例 BLOCK: 1 1995 12 6 START 10:08 SPLIT / LAP
 - IDを「1」に設定した場合 Iブロックナンバー
 - 各ブロックナンバーの上に IDが印字されます。

電池についてのお願いとご注意

- このストップウオッチには、「本体用の小型リチウム電池1個」と「照明用の単4乾 電池2本」の2種類の電池を使用しています。
- これらは電池寿命が異なりますので、必要に応じそれぞれの電池交換をすることにな ります。
- 本体用の小型リチウム電池
- このストップウォッチは、新しい電池を組み込んだ場合、その後約3年間作動します。 ただし、1日にターゲットタイム音を30回鳴らすことを基準にしていますので、そ れ以上使用した場合は約3年に満たないうちに電池寿命が切れる場合があります。
- 昭田田の単4乾電池 バックライトとセイフティライトを連続で約50時間(マンガン電池の場合)使用できます。 アルカリ乾電池の場合、約90時間の連続使用が可能です。 ボタン操作がない場合、60~70分で自動消灯する機能があります。

2. 電池寿命切れ予告機能について 本体用の小型リチウム雷池

) とき、無理に電池ぶたを持ち上げると、引っ掛け部の爪が破損する恐

表示部に [BATT.] マークが点滅しはじめると、 2 ~ 3 日中に時計が止まる可能性 がありますので、お早めにお買い上げ店またはセイコー取扱店にご依頼ください。 (本体用小型リチウムをお客様が交換する場合は「 電池交換のしかた」をよくお 読みくださいん

照明用の乾電池の電池寿命をお知らせする機能はありません バックライトやセイフティ - ライトが暗くなったら、お早めに電池交換をしてください。

. 電池交換にあたって

- 本体用の小型リチウム電池 この本体用の電池を交換するときや、電池寿命が切れた場合、それまで記憶してい たデータが消去あるいは元の設定に戻りますので、保存したいデータはあらかじめ 別売の専用プリンターで印字しておくなど、記録をとっておくことをお勧めします。 昭明用の単4 乾雷池
- この照明用の乾電池を交換するときや、電池寿命が切れた場合、「表示部のバック ライト」と「セイフティーライト」が点灯しなくなります。本体の電池とは異なり ますので、表示部の表示やメモリーはそのままです。

お買い上げのストップウオッチにあらかじめ組み込まれている「本体用の電池」は 機能・性能をみるためのモニター用電池です。お買い上げ後約3年を満たさない内 に電池寿命が切れる場合がありますがご了承ください。

図のようにリチウム電池の近くに

ある「AC」と書いてある穴を、先

もう一度印字を行ってください。

SPLIT / LAP

1-0 : 00 '23 01

0:00'2301

2-0:00'4745

0:00'2444

. 電池寿命切れの電池について 寿命切れした電池をそのまま長時間放置しますと、漏液などで本体の故障となりま すので、お早めに交換をしてください。

特に、照明用の単4乾電池は、未使用時には外しておくことをお勧めします。

4.最初の電池

電池交換のしかた

- 本体用の小型リチウム電池」の交換は、特殊な作業になります。
- ・先のとがったものが必要であること。・交換後、システムリセットスイッチを押すこと
- よって、お買い上げ店またはセイコー取扱い店に交換をご依頼いただくことを、お勧
- お客様ご自身で行う場合は、以下の説明をよくお読みください。

・電池ぶたを外すと、単4乾電池の交換が可能です。この乾電池の奥に「リチウ

ム電池」があります。通常は、単4乾電池のみの交換が多いと思われます。

(お客様が交換する場合のみ)

照明用の単4乾電池・・・・・市販の「単4マンガン(またはアルカリ)乾電 池」2本

本体用の小型リチウム電池・・市販の「リチウム電池: CR2032」1個

- (1)交換用の新品の電池や交換後取りだした電池は、幼児の届かないところに保管して
- 火に入れることは絶対にしないでください。
- 硬貨(500円硬貨が最適)などで、電池ぶた止めネジをゆるめてください。 2~3回転でゆるみます。 ベルトは電池ぶたを外す際に多少妨げになりますので、予め外すことをお勧めしま ベルトについて」を参照。)



電池ぶたを外します。図のようにややスライドさせるようにすると簡 単に外せます。

れがありますので、ご注意ください。 (2)万一飲み込んだ場合は、体に害を与えますので、ただちに医師とご相談ください。 (3)破裂、発熱、発火などの恐れがありますので、電池を充電、ショート、分解、加熱

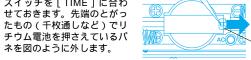


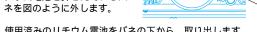
乾電池2本を取り出します。

この後、本体用リチウム電池の電池交換の必要がなく、乾電池のみ交換す る場合は、操作 に進んでください。

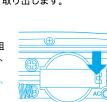


本体用の小型リチウム電池の 交換を行うときは、表示切替 スイッチを [TIME] に合わ せておきます。先端のとがっ たもの(千枚通しなど)でリ

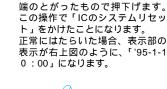




新しいリチウム電池を組み込みます。 雷池のマイナス側を下側にして、雷池を組 み込み、そのままバネを上から押しつけ、 引っかけ部をしっかりと、セットします。 確認してください。



引っかけ部



使用済みのリチウム電池をバネの下から、取り出します。



AC(システムリセットスイッチ)

表示が右図のようにならない場合は、「AC」 (システムリセットスイッチ)をもう一度押 してください。

秒表示は動いています

新しい単4乾電池を2本入れます。

+ - を間違えないように入れてください。 側を先に入れるようにしてください。 2本とも新しいものを入れてください。



電池ぶたの引っかけ部を先にセットし、電池ぶたを押えながら、電池ぶたを 止めネジを締めてください。 電池ぶた止めネジは、約2~3回転で締まりますので、それ以上は無理に締めないでく ださい。また、本体のエンキンには、ないと性を保ったのシリコングリスが塗布されていますので、拭き取ったリンないで、電池がた上めネシを締めます。

これで電池交換は終了しました。ご使用前に時刻・券にセッケーとを含わせてください。

- 電池交換後や万一異常な表示 (読めない表示など) をした場合、「 電池交換のしかた」を参照して 「AC」(システムリセットスイッチ)を先端のとが
- 照明用の単4乾電池を2本とも外します。
- 単4乾電池を2本セットし、電池ぶたを締めて ください。 時刻・カレンダーは合わせ直してください。

時刻・カレンダーのあわせかた」参照)

電池交換後のお願い(システムリセット)

- ったもので押してください。
- 「AC(システムリセットスイッチ)を押します。 表示切替スイッチは、TIME]に合わせておきます。